

Meikai

明海大学は、国際未来社会で活躍する有為な人材の育成をめざします

NEWS LETTER

明海大学

毎月1日発行

編集・発行

企画 広報課

題字：創立者筆

第23回明海祭

笑顔と感動の「輪」

学生と地域が一体に

11月5日から7日にかけて浦安キャンパスで第23回学園祭(明海祭)が開催され、多くの学生や地域住民らで賑わった。今年のテーマは「輪」。このテーマには、明海祭に携わるすべての人が一つの大きな輪でつながり、輪であるからこそ見えるすべての人の顔が笑顔で溢れる明海祭を創り上げたいという願いが込められている。期間中は多くの参加者の笑顔が広がる学園祭となった。



(右)チアリーディング部の活気溢れるパフォーマンス
(左上)西條学園祭実行委員長 (左下)サークルの出店も好評

オープニングセレモニーは新浦安駅から明海大学までのパレードで始まり、多くの参加団体が行進を盛り上げて華やかに祭りの幕が開いた。

メインステージでは軽音学部やチアリーディング部、ジャズオーケストラ部、ダンスサークルなどが連日活気溢れるパフォーマンスを披露。本部企画では、人気音楽アーティスト「清水翔太」のライブや戦場カメラン「渡部陽一」の講演会、大人気のお笑いコンビ「ハイキングウォーキング」のショートコントが行われるなど、多くの地域住民も参加し、各会場やステージ周辺は常時、大勢の人で賑

わった。講義棟内では子どもたちに毎年人気のオリエンテーリングをはじめとするイベントや、屋外の第2グラウンドではフリーマーケットが開催され、地域住民と学生らが交流する姿が多方面で見られた。

この他、豪華商品が当たる「ガラ×2君」など、数多くの魅力的な企画に会場は終始笑顔が絶えなかった。また、学園祭実行委員会

では、昨年に引き続きエコ活動にも力を入れ、ゴミの分別を徹底することも今年には割り箸のリサイクルも取り入れ、環境保全にも取り組んだ。

西條明美学園祭実行委員長(H.T学科3年)は「しっかりとした大きい『輪』が出来上がったことに感謝しています。教職員の方や地域の方の協力も支えとなり、皆でやり遂げることができました」と感謝の言葉を語った。今年も多くの人に笑顔や喜び、そして感動を与えてくれた明海祭は、テーマである「輪」を見事に創り上げ、成功裏に幕を閉じた。

明海スポーツ MEIKAI SPORTS

体育会空手道部 全日本大学空手道選手権大会

男子団体組手が初のベスト8に

11月21日、第54回全日本大学空手道選手権大会が行われ、本学からは男女団体組手が出場(男子は4年連続出場、女子は2年連続)し、男子団体組手が初のベスト8に進出した。この大会は毎年伝統校が上位を占めるため、本学の快進撃は会場となった日本武道館を揺るがした。

男子団体組手の緒戦は佛利し、代表戦に突入した。教大と対戦。1勝1敗で迎えた3戦・4戦では期待の1年生、垣辻昇祐選手と大塚純也選手(ともに経済学科1年)の2人が連勝する大活躍を見せ、4対1で勝利した。続く2回戦、東京農業大学に4対1と勝利しベスト16に進出。さらに3回戦は強豪大理大学と対戦し、会場中の注目を集める中、大激戦となった。

1勝2敗1分で迎えた大将戦は、怪我から復帰したばかりの武田隼介主将(経済学科4年)が登場。代表戦(延長戦)に持ち込むには2ポイント差以上の勝利が必要であったが、武田選手は見事2ポイント差で勝利し、代表戦に突入した。その代表戦、エースの上田航選手(経済学科2年)が冷静な試合運びで勝利した。続く準々決勝では、本大会で優勝した近畿大学と対戦。果敢に挑んだものの0対5で敗れたが、本大会で初のベスト8入り(昨年はベスト16)となり、明海大学体育会空手道部に新たな歴史の1ページを刻んだ。また、女子団体組手は緒戦で強豪関西大学に1対2で惜敗したが、下机芳美選手(経済学科1年)が団体優勝経験のある全日本強化選手を相手に勝利するなど、大いに健闘した。

【3面に続く】



落成記念プラークの前で徐口腔医学院長と握手を交わす宮田淳常務理事(左)

北京大学口腔医学院 新研究棟完成記念式典

四半世紀に及ぶ交流 さらなる発展へ

建学の精神に基づき積極的な国際交流を推し進める本学では、1984年に姉妹校協定を締結している北京大学口腔医学院の研究棟落成記念式典に、宮田淳常務理事と中島裕倫学部長、藤原周朝日大学国際交流委員長が招待を受け、10月28日から31日までの日程で出席した。

これまで本学と同医学院との関係は四半世紀に及び、84年11月に締結された姉妹校協定以降、さまざまな交流が行われてきた。89年

には、当時の北京医科大学口腔医学院(現北京大学口腔医学院)に日中教育研究施設(PDI)を設立するための寄付を行い、91年にその施設が完成。また、93年からは交換研修プログラムを展開している。新研究棟は91年にPDIとして完成した施設をもとに08年12月から改修が開始され本年4月に完成した。総床面積7986平方メートル、地上9階地下1階からなる新研究棟は、口腔生物学を中心に分子生物学、免疫学、唾液、硬組織研究あるいは生体材料学、臨床領域研究など、北京大学口腔医学院における研究ならびに大学院教育活動の中心となるだけでなく、中国国内はもとより、国際的な研究拠点をめざしたものである。

完成記念式典には新研究棟前の口腔医学院構内で国内外の関係者や大学職員、学生ら約200人が参加。壇上では、徐(シユウ)口腔医学院長と宮田淳常務理事によって新研究棟に設置される落成記念プラークの除幕式が行われた。記念碑板には、新研究棟が完成するにあたり研究棟の原点としての明海・朝日大学の多大な支援と協力への感謝、さらに明海・朝日・北京大学の3大学の交流が大学のごとにも記されていた。除幕式後に宮田常務理事が宮田恒理事長の祝辞を代読。明海・朝日大学と口腔医学院との交流によって積み上げられた友好関係と、新研究棟の原点となったPDIの歴史を述べた後、新研究棟を通じて研究・教育活動の発展だけでなく、明海・朝日・北京3大学の将来に向けてのさらなる友好と発展を祈念している旨が語られ、参加者から大きな拍手が起きた。

最後に宮田常務理事を含まず、関係者によるティーパカットが行われ式典は終了した。

しての明海・朝日大学の多大な支援と協力への感謝、さらに明海・朝日・北京大学の3大学の交流が大学のごとにも記されていた。除幕式後に宮田常務理事が宮田恒理事長の祝辞を代読。明海・朝日大学と口腔医学院との交流によって積み上げられた友好関係と、新研究棟の原点となったPDIの歴史を述べた後、新研究棟を通じて研究・教育活動の発展だけでなく、明海・朝日・北京3大学の将来に向けてのさらなる友好と発展を祈念している旨が語られ、参加者から大きな拍手が起きた。

た。会場には、浦安市の新たな特産品の決定を期待する市民らおよそ140人が詰め掛けた。コンテストは、岩下ゼミ生が作成したオープニング映像の上映からスタートし、主催者などの挨拶の後、1次選考を通過した9組による商品アイデアのプレゼンテーションが行われた。ノミネート作品の中には、本学学生の星見静香さん(HT学科1年)、そして、中条明日香さん、建原佳子さん、宮川夏来さん(いずれもHT学科2年)チームの2組も選出され、自らの商品アイデアを説明した。審査の間には、アトラクションとして明海大学ジャズオーケストラ部による見事な演奏が披露された。

厳正な審査の結果、「浦安の絆」賞には、有泉環さん(市内在住)の、漁師町浦安を象徴する「べか船」をモチーフにしたチョコレート菓子「ウエハス潮チョコ」『べかチョコ』が選ばれた。グッドアイデア賞には、糸かすこさん(市内在住)の浦安のおやつ「ほったら焼き」を現代風にアレンジした「ほったらロール」。

浦安地域ブランド コンテスト

学生主体の イベント大成功

11月14日、浦安市文化会館で、明海大学と浦安商工会議所主催による「地域ブランド『浦安の絆』商品開発コンテスト公開審査会」(後援：浦安市)が行われ

。そして、審査員特別賞には、本学の中条さん、建原さん、宮川さんの提案した、かつての浦安の名産品であるアサリ、レンコン、ノリなどを素材にした生ぶりかけ『あっさりーな』が選ばれた。

コンテスト当日、岩下ゼミ生らは、会場設営から誘導・案内、受付、司会、舞台運営などその他細部まで全ての業務をチームワーク良く務めた。学生実行委員長の本名部麗さん(HT学科4年)は「産官学一体のプロジェクトのため、本当に多くの方と接することができ、まさに『絆』の上に成り立ったイベントだった。4年間を過ごす浦安ともしっかり関わりたいという熱意を持った学生達が集まることで、これからも永く『浦安の絆』を繋いでいってほしい」と感想を語った。



HT学部岩下哲典教授のゼミ生ら

【一面から続く】

武田主将は今大会を振り返り「10月に行われた関東大学空手道選手権大会で3位に入ったことから他大学にもマークされ、大きなプレッシャーがありました。しかし、チームが一丸となつてそのプレッシャーをほね除け、結果を出すことができました。自分自身、関東大会は怪我で出られず、この大会は仲間のおかげで参加できたので、天理大学戦で恩返しできてよかった」と語った。

その天理大学戦では、上妻優介監督が選手に「気持ちで絶対に負けるな」と鼓舞していたが、まさに全員が気持ちを一つにして素晴らしい結果を出した。武田主将が「後輩たちには『優勝が当たり前』と言われるチームになってほしい。それだけの力を持っているので存分に発揮してほしい」と語るように、来年以降も大いに期待が持てる大会となった。



激闘を制した天理大学戦（写真右 武田主将）

体育会ヨット部

全日本インカレで健闘！

10月29日から11月3日にかけて愛知県海陽ヨットハーバーで行われた平成22年度第75回全日本学生ヨット選手権大会（全日本インカレ）に本学体育会ヨット部が470級で出場し、24大学中11位と健闘した。



最終レースに挑む明海チーム

本学は、10月に行われた関東学生秋季ヨット選手権大会決勝で5位に入ったことから、全日本インカレには実に16年ぶりとなる出場権を獲得。例年、伝統校が顔を揃える同大会で、新鋭の明海大学は大会前から大いに注目を集めた。

レースには各大学から3艇が出場（計72艇）し、全10レースが行われた。本学からは、田上大輔（英米語学科4年）・大田徹（不動産学科2年）艇、山口貴之（経済学科2年）・宮崎俊介（不動産学科2年）艇、物井史（経済学科2年）・末吉佳（経済学科3年）艇が出場し、それぞれが臆することなく持ち味を発揮。最終レースでは、それまでチームを牽引していた山口・宮崎艇のマストが折れるというハプニングがあつたにも関わらず、大健闘した。

國府田由隆監督は「今年大きく飛躍するチャンスは年だったが、計画どおり4年でインカレへ出場し、順位を中位まで上げることができた。主将の末吉がチームをよくまとめた」と語り、その末吉主将は「私が入学したときには部員がわずか4人しかおらず、練習も満足にできませんでしたが、現在は部員も25名が増え、体制も充実し、良い結果が残せました。私は今回で主将を引退しますが、後輩たちにはインカレ総合優勝を目指してほしい」と力強く話した。

体育会発足後、わずか4年でヨット強豪大学へ押し上げる事ができた背景には、國府田監督および高木克也・神作聡コーチの指導、大学や中川仁部長（外国語学部講師）のバックアップに加え、保護者やOBの熱い声援や支援の賜物であると部員たちは感謝の言葉を口にす。

ヨット部は今大会の大きな経験で弾みをつけ、さらなる飛躍が期待される。

11月2日から22日にかけて平成22年度第43回関東大学サッカー大会が行われ、本学体育会サッカー部が千葉県代表として出場した。同大会には8チームが出場。AグループとBグループに4チームごとに分かれ、各グループの上位2チームが関東大学サッカー2部リーグ

への昇格決定戦へ進出となる。11月27日に北関東大学選抜および東京都大学選抜Bと試合を行った。また、千葉県大学選抜チームの監督に本学から八津川義廣監督、GKコーチには高橋浩太一が選出された。

体育会サッカー部

関東大学サッカーリーグ2部昇格ならず

11月2日から22日にかけて平成22年度第43回関東大学サッカー大会が行われ、本学体育会サッカー部が千葉県代表として出場した。同大会には8チームが出場。AグループとBグループに4チームごとに分かれ、各グループの上位2チームが関東大学サッカー2部リーグ

への昇格決定戦へ進出となる。11月27日に北関東大学選抜および東京都大学選抜Bと試合を行った。また、千葉県大学選抜チームの監督に本学から八津川義廣監督、GKコーチには高橋浩太一が選出された。

残念ながら2部昇格とはならなかったが、下級生の活躍も目立ち、今後の活躍に大いに期待の持てる大会となった。この悔しさを来年に繋げ、念願の2部昇格を遂げてほしい。

惜しくも予選突破はならなかった



惜しくも予選突破はならなかった

千葉県大学選抜に12人

千葉県大学サッカー1部リーグで4年連続優勝を果たした本学サッカー部から過去最多となる12人が千葉県大学選抜チームに選ば

れ、都県選抜選考会として11月27日に北関東大学選抜および東京都大学選抜Bと試合を行った。また、千葉県大学選抜チームの監督に本学から八津川義廣監督、GKコーチには高橋浩太一が選出された。

選手

- ①中村竜也 MF（経済学科3年）
- ②立石昌也 MF（経済学科3年）
- ③若田正太 FW（経済学科2年）
- ④大山健二 GK（経済学科2年）
- ⑤錫田周作 DF（経済学科2年）
- ⑥三澤周作 DF（経済学科2年）
- ⑦金澤健MF（経済学科2年）
- ⑧若林優汰 MF（英米語学科2年）
- ⑨宮本拓弥 DF（経済学科1年）
- ⑩藤谷航平 DF（日本語学科1年）
- ⑪兵藤誠矢 MF（経済学科1年）
- ⑫高橋完治 FW（経済学科1年）

監督 八津川義廣
GKコーチ 高橋浩太

監督 八津川義廣
GKコーチ 高橋浩太

不動産ビジネスの経営戦略

11月11日、不動産学部の授業「不動産ビジネスの経営戦略」に、株式会社エイブル代表取締役社長の平田竜史氏を講師に招き、特別講義が行われた。

平田氏は、経済情勢や政治などさまざまな側面から不動産業界の現状を説明し、その後、不動産業界への就職活動を有利に進める

ためのアドバイスを送った。特に、企業から求められる資質については「論理的思考力やコミュニケーション能力などは、どの企業でも重視される。これらは本人が意識すれば必ず身につくもの」と語り、その重要性を説いた。

また、学生が取得を目指す宅地建物取引主任



アドバイスする平田氏

11月11日に株式会社ダイヤモンドビッグ社社長の西川敏晴氏、11月18日に株式会社ニューオータニ元副社長の甲田浩氏、11月25日に株式会社風の旅行社代表取締役の原優二氏を招聘した。

28日の松本氏の講義では、今後のホテル産業の展望として、そこ求められる資質についての話があった。

真剣な様子で講義に聞き入る学生に対して、松本氏から「学生のうちに様々な経験をし、自分の感性を磨いてください」とエールが送られた。

英米語学科 特別講演会

10月22日、外国語学部英米語学科「Advanced Business English」の授業の一環として特別講演会が開催された。講師は慶應義塾大学法学部教授の河野武司氏。グローバル社会での活躍を目指す学生に、世論に流されずに自己確立をしてもらうことを目的に、「投票行動に与える報道の影響」と題した講演が行われた。

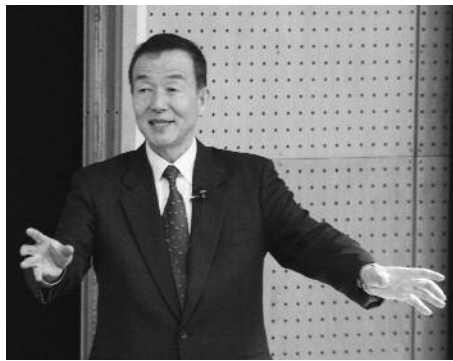
河野氏はマスメディアの世論に対する多大な影響力について、「メディアが発

信する情報をすべて正しいとせずに、自分で情報を取捨選択していかなくてはならない」と語り、メディアによる政治的偏向の問題について触れるとともに、投票行動に与える影響について論じた。また、メディアの役割は「政府の活動を監視する番犬」でもあるとして、メディアに洗脳されていく国民の思考過程・行動様式などについて説明した。

参加した学生からは「世界の時事問題など様々な情報収集をしたうえで選挙に行かなければならないと感じた」「社会人になる前にこのような講演に参加でき、とても有意義だった」などの感想が寄せられた。

HT学部 社長講座

ホスピタリティ・ツーリズム業界の経営トップを講師に招き、オムニバス形式で講義を行うHT学部の「特別講義Ⅱ」(通称「社長講座」)では、10月28日に株式会社三井不動産ホテルマネジメント会長の松本邦夫氏、



壇上からエールを送る松本氏

引き続き、12月2日に有限会社柳生の庄社長の長谷川卓氏、12月9日に株式会社T&E社長の三橋滋子氏、12月16日に株式会社レイ会長の分部日出男氏の講義が予定されている。

経済学部特別講義

10月27日、経済学部の授業「環境経済論Ⅱ」で、09年に同学部を卒業し、郵便事業株式会社に勤める青木拓也氏を招き、特別講義が行われた。

授業担当の山下東子教授から挨拶があった後、壇上に立った青木氏は「社会に出ると大きさまざまなルールが存在します。学生時代とは違うということを感じ取り取ってほしい」と語った。また、自身の就職活動を振り返った上で「気取らないことが何より大切。ありのままの自分で働ける場所をぜひ見つけてほしい」と、これから就職活動を迎える在学生にアドバイスをした。身近な先輩の言葉を聞き漏らすまいと、熱心にノートに書き留める学生たちの姿が印象的だった。

埼玉新聞に明海大学発「新しい歯の話」好評連載中

今年8月から毎月1回、全5回にわたり埼玉新聞で「明海大学発歯科医療の現在と未来 新しい歯の話」を連載している。この連載は、本学歯学部の教授陣らが最新の研究成果と展望をインタビュー形式で答えるもので、既に第4回までが掲載され反響を呼んでいる。第1回から第5回までのテーマ、教員は次のとおり。

■第2回「高齢者の食と安全」健康は口の中の清潔から

■第4回「口腔がんの早期発見と対応」舌や粘膜にも関心を」

清水良昭准教授(9月7日掲載)

■第5回「先進医療歯の影響力は大きい」

■第3回「歯周病(ペリオ)」について生活習慣の改善重要」

嶋田淳教授(12月掲載予定)

申基哉教授(10月8日掲載)

■第1回「スポーツと歯の噛み合わせが変わる筋力」安井利一学長(8月10日掲載)

2010年(平成22年)8月10日(火曜日)

新しい歯の話

歯の噛み合わせが大切

スポーツと歯の関係

噛み合わせが大切

明海大学学長 安井利一氏

第1回目掲載の安井学長インタビュー記事

歯学部生涯研修

11月6日、7日の2日間、PDI浦安歯科診療所で「従来の概念を超えた自家歯牙移植最新線——自家歯牙移植」と題して、歯学部生涯研修（CE）が行われた。医療法人月星歯科クリニック理事長で国際外傷歯学会会長でもある月星光博氏が講師を務めた。月星氏は、外傷歯の治療における世界的な第一人者であり、当日は15人が研修に参加した。

初日は、講義中心に行われ、移植における基本的な創傷の治療についての考察や移植を成功に導くための術式を詳しく解説。2日目は、模型を用いて移植床の基本的な形成術式などの実習を中心に行った。

2日間とも、歯科全般に及ぶ治療の基礎的知識と専門的技術を包括的に習得できるプログラムとなっている。

術式を詳しく解説。2日目は、模型を用いて移植床の基本的な形成術式などの実習を中心に行った。

2日間とも、歯科全般に及ぶ治療の基礎的知識と専門的技術を包括的に習得できるプログラムとなっている。



熱心に説明をする月星氏

就職支援セミナー

厳しい就職戦線に立ち向かう学生をサポートするため、浦安キャンパスでは10月から11にかけて3年生と4年生を対象とした就職支援セミナー・講座を多数開催。11月にはキャリアアビリティングセミナー（浦安キャンパス同窓会主催）、業界研究セミナー、筆記試験対策講座および就職講座などが実施され、多くの学生が参加した。

中でも昨年参加学生から大変な好評を得たキャリアビルディングセミナーは、今年も11月4日から6日にかけての3日間で行われ、多くの学生が参加。学生は2日間のグループディスカッションやプレゼンテーションを経て積極性や協調性を高め合い、最終日には学生が自ら招待した親や友人、教職員などを前に自分の夢や生き方をプレゼンテーションし、多くの感動を呼び寄せた。

参加した川井美樹さん（HT学科3年）は「とにかくチャレンジし、自分と向き合える充実した3日間でした。プレゼンテーションなどを通して自分に自信を持つことができ、相手に伝えることの嬉しさを実感しました」と語った。



感動を呼んだ学生のプレゼンテーション

英米語学科 就活講座

10月22日に、「私ならこうアピールする」と題して英米語学科就活講座が実施された。これは、いよいよ本格的な就職活動を開始する3年生を対象に、エントリートメントの効果的な書き方を身に付けるためのもの。講師には同学科を08年に卒業し、現在東武デパートに勤務している濱智美氏が招かれた。

濱氏は自身が就職活動の際に書いたエントリートメントを参考にして話を進め、また学生にも実際に簡単な自己紹介シートを書いてもらうなど、実践的でわかりやすい講座を展開した。初めて挑戦する学生たちは最初は戸惑っていたものの、濱氏から書き方のコツを教えるとうとう、それを活かして個性あふれる内容に仕上げた。

東武デパートの内定は学生時代のアルバイトが決めた手だったという濱氏から「特別なことをやる必要はありません。どんなことでも構わないので、とにかく積極的に自分から行動し、そこで得た経験をしっかりと伝えられるように心掛けることが大切」とアドバイスが送られた。

参加した学生は「とても参考になる内容で、同じ学科の先輩として憧れます。連絡先を教えてくださいたいので、就職活動で不安になったときに相談できることが強い」と語った。

歯学部がバーティカル・ティアを実施

11月15日から、歯学部の1・3・5年生によるバーティカル・ティアが行われている。これは、総合講義の臨床教育プログラムの中で、1年生は上下顎の概形印象の採得体験、また1・3年生は5年生による講義・指導などを通じて、歯科医療の一端を認識することを目的に毎年実施されている。

5年生にとっても1・3年生に講義・指導を行うことで、これまで学んできたことを振り返る機会ともなっている。

実施に先立ち、11月8日に行われた1・3年生合同オリエンテーションでは、中寛裕歯学部部長から「皆さんが臨床着を着用して臨床実習に加わるという時点で、患者さんからは医師として見られ、対応・身振などが悪いと、明海大学病院にとっては厳しい評価につながってしまう」と説明があり、話を聞く学生の顔は真剣そのものだった。バーティカル・ティアが始まると1・3年生は、「口腔診断科」「保存修復科」「歯内療法科」「歯周病科」「口

腔外科」「口腔外科」「矯正歯科」「歯科放射線科」「有床義歯」「クラウン・ブリッジ」「小児歯科」「口腔保健科」など、12の診療科などへ各3、4人程度に振り分けられた。1・3年生は各診療科などを肌で感じ、歯科医学を学び、将来の歯科医師としての自覚を醸成する契機となった。なお、このバーティカル・ティアは1月24日まで行われる。

今年も11月4日から6日にかけての3日間で行われ、多くの学生が参加。学生は2日間のグループディスカッションやプレゼンテーションを経て積極性や協調性を高め合い、最終日には学生が自ら招待した親や友人、教職員などを前に自分の夢や生き方をプレゼンテーションし、多くの感動を呼び寄せた。

参加した川井美樹さん（HT学科3年）は「とにかくチャレンジし、自分と向き合える充実した3日間でした。プレゼンテーションなどを通して自分に自信を持つことができ、相手に伝えることの嬉しさを実感しました」と語った。

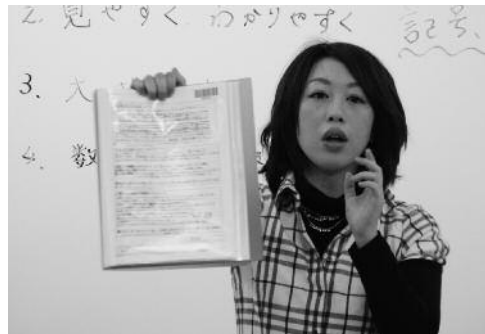
今年も11月4日から6日にかけての3日間で行われ、多くの学生が参加。学生は2日間のグループディスカッションやプレゼンテーションを経て積極性や協調性を高め合い、最終日には学生が自ら招待した親や友人、教職員などを前に自分の夢や生き方をプレゼンテーションし、多くの感動を呼び寄せた。

参加した川井美樹さん（HT学科3年）は「とにかくチャレンジし、自分と向き合える充実した3日間でした。プレゼンテーションなどを通して自分に自信を持つことができ、相手に伝えることの嬉しさを実感しました」と語った。

濱氏は自身が就職活動の際に書いたエントリートメントを参考にして話を進め、また学生にも実際に簡単な自己紹介シートを書いてもらうなど、実践的でわかりやすい講座を展開した。初めて挑戦する学生たちは最初は戸惑っていたものの、濱氏から書き方のコツを教えるとうとう、それを活かして個性あふれる内容に仕上げた。

東武デパートの内定は学生時代のアルバイトが決めた手だったという濱氏から「特別なことをやる必要はありません。どんなことでも構わないので、とにかく積極的に自分から行動し、そこで得た経験をしっかりと伝えられるように心掛けることが大切」とアドバイスが送られた。

参加した学生は「とても参考になる内容で、同じ学科の先輩として憧れます。連絡先を教えてくださいたいので、就職活動で不安になったときに相談できることが強い」と語った。



見本を掲げて説明する濱氏

日本語発表交流会



流暢な日本語と演技で会場を魅了

11月16日、浦安キャンパスで別科生、海外協定校の特別聴講学生、全米大学連盟特別聴講学生（以下IE S生）による日本語発表交流会が行われ、会場には約350人も教職員、学生らが詰め掛けた。

この交流発表会は、授業で学んでいる日本語、日本文化について発表する場を設けるとともに日本人学生との相互交流を深めることを目的に毎年行われている。

発表した11組は、それぞれ

れユーモア溢れる演技や発表を行い、会場は笑いに包まれた。また、大掛かりな道具を用意して見事な演技を披露するグループもあり、発表に対する意気込みが感じられた。

IES生のアンジェラ・メクレイさんは「一週間前から今日のために一生懸命練習しました。セリフを覚えることが大変でしたが本番では思いどおり表現ができ、思い出になる一日となりました」と感想を語った。

浦安キャンパス海外研修レポート

前号に引き続き、参加学生に感想を語ってもらった。

日本語を教える難しさを実感

【釜山外国語大学校（韓国）
9月4日～9月18日
坂井花絵（日本語学科3年）

韓国での2週間の研修では、教育実習やホームステイなど、様々な経験をしました。教育実習では、50分間の授業を3回担当しましたが、1クラス30人分に対応した教案を作成することは容易ではありませんでした。また授業では、教案ど



教育実習の様子

広い視野を手に入れる
【ケンブリッジ大学（イギリス）
9月5日～9月14日
佐野 圭胤（不動産学科3年）

おりに進めることが精一杯で、学生の予想外の答えや質問に柔軟に対応することの難しさを知りました。ホームステイでは、家族が全く日本語を話さませんでした。だが、互いに言葉を教えあったりして、とても楽しく過ごすことができました。この研修を通じて、日本語教員になりたいという気持ち

がさらに強くなると共に、もっと勉強したいという意欲が湧きました。今後は、日本語教育能力検定の資格取得を目指し、研修で学んだことを活かしていきたいと思えます。

業を展開し、ロンドン株式取引所に上場する企業「サヴィルズ」の日本人エージェントの講義でした。私は将来、不動産投資関係の職業に就きたいと考えており、イギリスの不動産事情を知ることが、イギリスの市場にとっても強い興味を持ちました。研修を通じて、広い視野を手に入れること

ができました。奨学生として参加できたことに感謝すると共に、今後さらに勉学に努めていきたいと思えます。



修了証書を手

普段よりも思いきった行動をしました。挑戦すること

で、新たな発見や、大きな感動が得られることを実感しました。

挑戦することで新たな発見を得る

【ハワイ大学（アメリカ）
8月23日～9月13日
高橋 江莉（ホスピタリティ・ツーリズム学科3年）

ハワイ大学で観光に関する授業の受講や、JTBハワイをはじめとする観光関連企業や文化施設などの見学をしました。この3週間で私は本当にたくさんのごとに気づかされました。例えば、大学の授業。ハワイでは学生がとても熱心に学んでいます。私語がなく、先生の質問に学生がすぐに答え、積極的な印象を受け



お世話になった先生と

浦安キャンパス同窓会パーティー

同窓会の発展に期待

明海祭期間中の11月7日、浦安キャンパス30周年記念館学生ホールで、第19回浦安キャンパス同窓会パーティーが開催され、卒業生ら約400人が参加した。

冒頭、北原淳会長から同窓会の現状についての報告と、本パーティーの新たな企画である、子どもを持つ同窓生に配慮し、子どもたちがパーティーの間遊べる場として設置した「キッズルーム」や、ジャズオーケストラ部による演奏、そして不動産学部同窓会「緑風会」による「不動産セミナー・無料不動産相談会」の実施について紹介があった。続いて、来賓として招待された小泉

允園副学長から、「同窓会の活動としては支部としての経済学科が来年度発足予定となり、いよいよ浦安キャンパス全6学科が揃うことになる。今後の同窓会の発展に期待したい」と挨拶した。



再会を喜ぶ同窓生たち

に華やかな雰囲気になった。「同窓会パーティーは恩師や旧友に会うことができ、貴重な機会なので大変楽しみにしている」との声が聞かれた。

不動産セミナー・ 無料不動産相談会 初の開催

明海祭期間中の11月7日、浦安キャンパスで不動産学部同窓会「緑風会」による不動産セミナーおよび無料不動産相談会が開催された。これは、不動産業界の第一線で活躍している不動産学部OBが、明海祭と併催される同窓会パーティーに参加する同窓生や近隣住民を対象に無料で不動産に関する相談に心じる企画で、今回が初めての開催となる。

不動産セミナーの講師を務めたのは、98年に本学を卒業した大友哲哉氏。大友氏は、本学卒業後、一部上場不動産会社に入社。その後独立し、現在は大友不動産有限会社の代表として活躍している。大友氏は、「住宅を購入する際には、将来のライフスタイルをよく考えて購入する必要がある」と説明し、具体的な事例を織り交ぜながら分かりやすく講演した。

オープンカレッジ・ オータムフェスティバル

11月5日から7日の3日間、明海祭にあわせて、毎年恒例のオープンカレッジ主催オータムフェスティバルが開催された。

このフェスティバルは、オープンカレッジで開講されている各講座の受講生が、日ごとの練習や学習の成果を発表する恒例のイベント。受講生らはメインステージで、ゴスペル、ダンス、エアロビクス、太極拳やフラダンスなど多種多様に披露し、大勢の観客を魅了した。一方でオープンカ

レッジ内では、書道やハワイアンキルトの作品展示、色彩講座講師による「パーソナルカラーチェック」などが行われた。また、今回初めて明海祭のパレードにスタッフに参加し、学生とともに明海祭を盛り上げた。

地域と大学を結ぶ一大イベントとして定着したオータムフェスティバル。明海祭の雰囲気や華やかなものにするともに、多くの方々にオープンカレッジの魅力を紹介する機会となった。

部日出男氏（96年卒業）、小野文章氏（97年卒業）の3人が来談者に応対し、豊富な知識を活かしながら丁寧な説明が行われていた。

不動産学部同窓会「緑風会」代表の渡辺孝之氏（96年度卒）は「緑風会として初めての試みでしたが、好評のうちに終わることができた。今後このような同窓生向けのサービスを提供していきたい」と語った。

2011年新春もちつき大会開催

日時：2011年1月8日（土）
開催時間：12:00～15:00

場所：晴天時 浦安キャンパスメインゲート付近
雨天時 浦安キャンパス30周年記念館横
ペDESTリアンデッキ下



※どなたでもお気軽にご参加いただけます。（無料）
※お餅がなくなり次第、終了とさせていただきます。

お問い合わせ：学事課（オープンカレッジ担当）
TEL：047-355-5115 FAX：047-355-5113



オープンカレッジの魅力を伝えた受講生

浦安キャンパス教育懇談会

10月24日、浦安キャンパス教育後援会の東北B地区教育懇談会が、福島市内のホテルで開催され、父母、教職員、教育後援会役員など51人が参加した。

その後、鈴木洋州学生支援課長が、本年度入試、および就職支援の状況など、明海大学の近況を報告した。

全体会では、印南彰雄会長の挨拶の後、安井利一学長から、「大学と教育後援会が車の両輪となって、学生らが自己実現を図るためのサポートを全力で取り組むと同時に、今後より一層、大学生活が充実したものに、なるよう教育活動に力を入れていきたい」と挨拶があった。



個人面談の様子

また、10月31日と11月14日には、それぞれ岩手県盛岡市と福岡県福岡市で東北A地区・九州地区教育懇談会が、そして11月21日には今回初めて岡山県岡山市で中国・四国・近畿地区教育懇談会が開催された。

各会場とも個人面談や相談コーナーでは、離れて暮らす子女たちの生活や留学、就職に関する質問が多くあり、教職員の適切で親切な説明に保護者の安心した様子があがった。

屋内消火栓操法大会で健闘

10月28日、運動公園球技場駐車場第20回事業所自衛消防隊屋内消火栓操法大会が行われ、市内23事業所の自衛消防隊が参加。操作員の動きの正確さや、放水準備から火点に見立てた標的を倒すまでのタイムを競い合った。本学からは指揮者・小野原準一（学生支援課）、1番員・金子直人（学事課）、2番員・澤澤誠（学事課）、3番員・木原功仁（庶務課）、補助員・三橋友一（入試課）の5人で組織された自衛消防隊が参加し、この日まで積み重ねてきた訓練の成果を発揮した。

大会当日はあいにくの雨だったが、各自衛消防隊は本番前の最終確認に余念がなく、応援に駆けつけた各事業所の関係者によって会場は熱気に包まれていた。本学は13番目に登場し、

小野原指揮者の号令により操法が始まると応援に集まった職員から歓声が沸きあがった。



訓練の成果を発揮した本学隊員ら

達成感をにじませていた。本学は総合順位で5位と、あと一步のところまで表彰は逃したが、これまで業務と

訓練を両立させてきた隊員らに健闘を讃える惜しみない拍手が送られた。

クリーンキャンペーン実施

11月15日から30日までの2週間、浦安キャンパスではクリーンキャンペーンが実施され、多くの学生や教職員が活動に参加。学内およびキャンパス周辺の清掃活動を行うとともに、分煙ルールの徹底や歩行喫煙の防止、さらにゴミの投げ捨

てや歩行マナーなどの改善を呼びかけた。

参加した学生からは「生け垣に捨てられたゴミが目立つので、定期的な活動が必要だと感じる」「喫煙マナーの徹底について考える機会になった」などの声が聞かれた。

クリーンキャンペーン

ペーンは学生と教職員がマナー向上のため一丸となって取り組む貴重な機会となっている。今後継続して行うことで大学全体にマナー向上の意識が浸透することを期待したい。



マナー向上の一翼を担う

「秋の叙勲」で清村名誉教授が受章

11月3日付けで発令された「秋の叙勲」で、本学から清村寛名誉教授が瑞宝中綬章の叙勲を受けた。清村名誉教授は、本学の発展に尽力し、長年の教育・研究などへの功績と学術振興の発展に寄与した功績などが評価された。



【清村寛名誉教授】55年大阪歯科大学歯学部卒業。70年に本学教授に就任。99年本学名誉教授。歯科矯正学。

人事往来

教員人事

坂戸キャンパス
採用 11月1日付
形態機能成育学講座歯科矯正学分野助教 神原 学▽
機能保存回復学講座オーラル・リハビリテーション学分野助教 雨森洋貴▽機能保存回復学講座オーラル・リハビリテーション学分野助教 松本篤樹▽機能保存回復学講座歯科補綴学分野助教 野露浩正▽形態機能成育学講座口腔小児科学分野助教 黒下礼奈

職員人事

浦安キャンパス
採用 12月1日付
管理課 佐藤志美

12月の行事予定

- 2日(木) 外国語/H T学部教授会
応用言語学研究科委員会
- 9日(木) 経済/不動産学部教授会
経済学/不動産学研究科委員会
- 16日(木) 明友会
歯学部教授会
歯学研究科委員会
- 22日(水)

明海大学企画広報課/古家 伸田
Tel: 0247-58000 浦安明海111
Fax: 0247-58010
Eメール: kono99@meikai.ac.jp
http://www.meikai.ac.jp

※この用紙は100%再生紙を使用しています。